

報道関係者各位

平成23年11月1日  
照会先  
社会・援護局障害保健福祉部  
精神・障害保健課  
課長補佐 本後 (3066)  
課長補佐 中谷 (3053)  
依存症対策専門官 蒲生 (3097)  
(電話・直通) : 03(3595)2307

## 向精神薬の処方実態に関する報告及び今後の対応について

向精神薬の過量服薬を背景とする自殺への対策のひとつとして、厚生労働省自殺・うつ病等対策プロジェクトチーム：過量服薬対策ワーキングチームで、抗不安薬・睡眠薬の処方に関する実態調査を行ってまいりました。このたび、その結果と、これを踏まえた対応をまとめました。

### 調査概要（別添1）

健保加入33万人の診療報酬データから、抗不安薬、睡眠薬を処方された人のデータを抽出し、分析を行った結果、

- ① 処方量については、9割前後の受診者で基準薬の添付文書に示された用量内の処方が行われていた。  
2009年受診者に対して処方される抗不安薬、睡眠薬を、ある基準薬の1日あたりに換算した値（処方力価）で見ると、
  - ・抗不安薬のジアゼパム換算で15mg以内の処方が95.8%
  - ・睡眠薬のフルニトラゼパム換算で2mg以内の処方が86.4%であった。
- ② 処方薬剤数については、ほとんどは単剤処方が行われていた。
  - ・抗不安薬が、1種類の割合が83.6%、3種類以上の割合が1.9%
  - ・睡眠薬が、1種類の割合が72.7%、3種類以上の割合が6.1%であった。

### 調査結果を受けての対応（別添2）

- ① 医療従事者に対しては以下のような情報提供を行う。
  - ・抗不安薬や睡眠薬の処方に際しては、残薬の有無や他の医療機関からの処方の有無について確認する等、十分に注意を払っていただくこと。
  - ・抗不安薬や睡眠薬については、薬物依存の可能性等に注意し、同種の薬剤を3種類以上処方する必要性について十分に考慮していただくこと。
- ② 一般の方に対しては以下のような情報提供を行う。
  - ・1回の処方で抗不安薬が3種類以上、又は、1回の処方で睡眠薬が3種類以上のいずれかの処方を受けている場合には、主治医に処方の内容について十分な確認をすること、あるいは、かかりつけの薬剤師等に確認すること等について、必要に応じ、検討していただくこと。

## 抗不安薬・睡眠薬の処方実態についての報告

平成23年11月1日  
厚生労働省 社会・援護局  
障害保健福祉部精神・障害保健課

平成22年度 厚生労働科学研究費補助金 特別研究事業「向精神薬の処方実態に関する国内外の比較研究（研究代表者：中川敦夫 国立精神・神経医療研究センタートランスレーショナル・メディカルセンター臨床研究支援室）」を参考として、抗不安薬・睡眠薬の処方実態について主なポイントをまとめた。

### 1. 診療報酬データを用いた向精神薬処方に関する実態調査研究

健康保険組合加入者及びその家族計約33万人の診療報酬データより、2005-2009年の4月1日～6月30日までの間に「抗不安薬、睡眠薬、抗うつ薬、抗精神病薬のいずれかを処方された者」を抽出し分析した。本報告では抗不安薬、睡眠薬についてのデータを使用した。

#### (1) 処方率、単剤率

20-74歳の一般人口における各向精神薬が3ヶ月間に処方された人数の割合を上記診療報酬データより推定した（推定処方率）。推定処方率は抗不安薬で5.0%、睡眠薬で4.7%であった。一種類の向精神薬（単剤）が処方された割合（単剤率）は抗不安薬で83.6%、睡眠薬で72.7%であり、いずれの薬剤も処方されている受診者の割合は5%以下で、そのほとんどで処方薬は一種類であった。

#### (2) 投与量

2009年の受診者に対して処方された抗不安薬、睡眠薬について1日当たりに換算した処方力価の度数分布と累積度数を示した。

処方力価の換算とは、各向精神薬の作用する力を基準とする薬の作用する力に合わせ換算したものである。例えば、Aという抗不安薬1mgと同等な作用のために抗不安薬のジアゼパムが5mg必要だという場合、Aが2mg処方されていたらジアゼパム換算で10mg処方されたこととなる。抗不安薬についてはジアゼパムを、睡眠薬についてはフルニトラゼパムを力価換算基準薬とした。

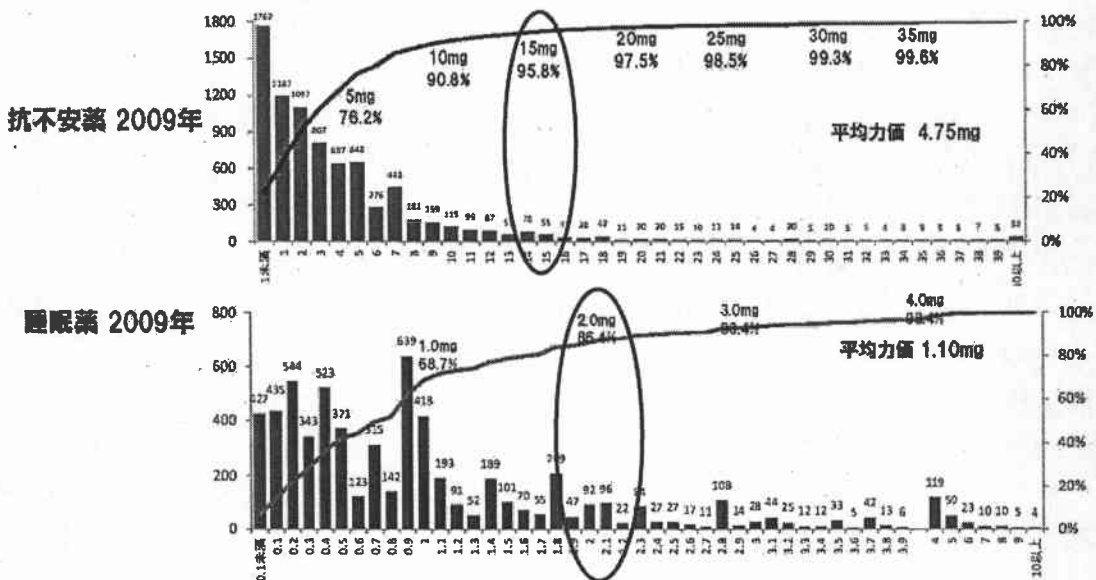
添付文書で示されている抗不安薬のジアゼパムの用量である15mg以内の処方が95.8%、睡眠薬であるフルニトラゼパムの用量である2mg以内の処方が86.4%と、ほとんどの受診者で基準薬の添付文書に示された用量内の処方が行われていた。しかし抗不安薬では15mgを超える処方が

4.2%みられ、処方量が40mgを超えるものが34例存在した。睡眠薬では2mgを超える処方量が13.6%みられ、処方量が10mgを超えるものもみられた。

なお、本調査で用いたデータは診療報酬データから機械的に抽出したものであり、投薬内容が変更となった場合など1ヶ月の処方内容が一時的に多くなる場合の検証はなされていない。

(参考：添付文書上の用法・用量の抜粋)  
 ジアゼパム・・・1回2～5mgを1日2～4回経口投与する。ただし、外来患者は原則として1日量として15mg以内とする。  
 フルニトラゼパム・・・1日0.5～2mgを就寝前又は手術前に経口投与する。

(注) 実際の向精神薬の処方においては、患者の病状に応じて、相当量の処方を行う必要がある場合や数種類の薬剤を併用する必要がある場合に、合計すれば力価換算により基準薬の用量を上回ることがある。



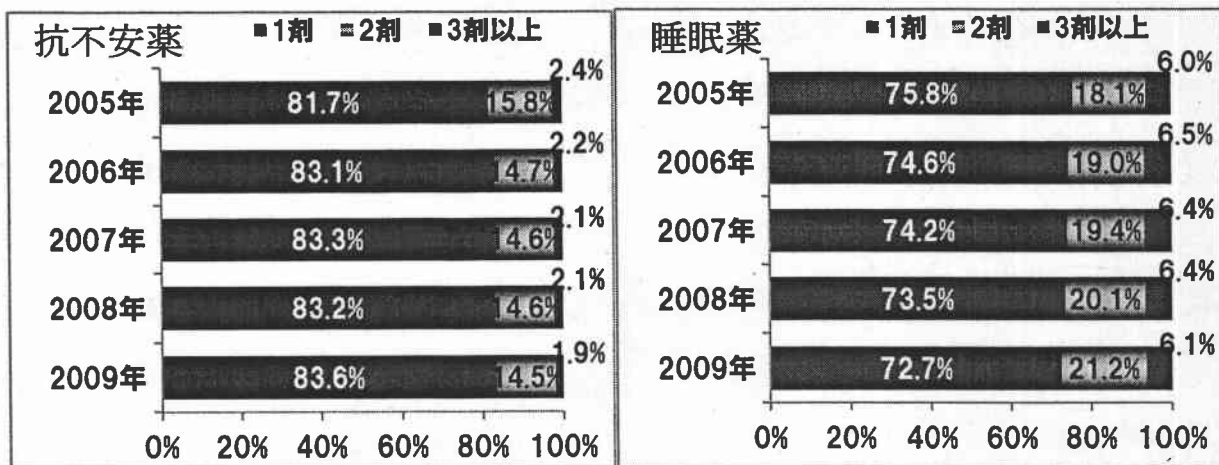
抗不安薬、睡眠薬の1日当たりの処方力価について度数分布と累積度数

### (3) 処方薬剤数

2009年の処方では抗不安薬の単剤処方率は83.6%、2剤処方率は14.5%、3剤以上の処方率は1.9%であった。睡眠薬の単剤処方率は72.7%、2剤処方率は21.2%、3剤以上の処方率は6.1%であった。

2005年と比較し、抗不安薬では2剤以上の処方率が減少して単剤の処方率が増加した。睡眠薬では単剤での処方率がわずかに減少し、2剤での処方率が微増した。

(注) 実際の向精神薬の処方においては、患者の病状に応じ、薬の効果が持続する時間や効き目の強さなどの異なる抗不安薬、睡眠薬を組み合わせる使用がある。



2005年-2009年における処方薬剤数

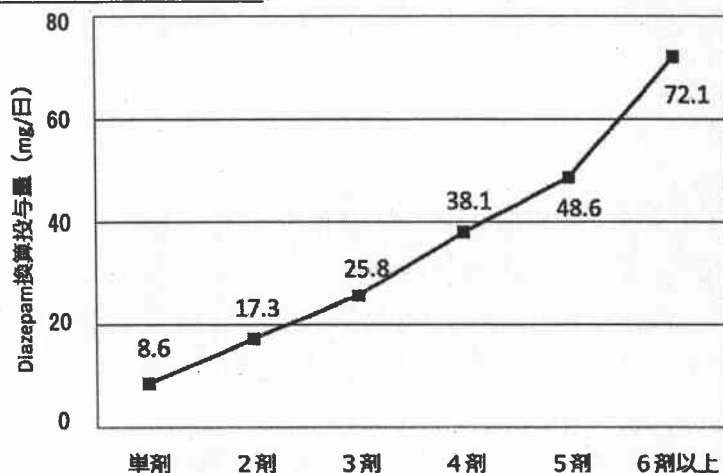
## 2. 診療録データ等を用いた向精神薬処方に関する実態調査研究

日本の3ヶ所の私立精神科病院において2010年3月31日の時点での薬歴に関する電子データを利用して、抗不安薬、睡眠薬を処方された全患者3,257名について調査した。

本調査では抗不安薬、睡眠薬ともジアゼパムを力価換算基準薬とした。

抗不安薬又は睡眠薬が単剤で処方された場合のジアゼパム換算投与量は8.6mg、抗不安薬、睡眠薬の合計で2剤併用した場合は17.3mg、3剤併用では25.8mg、4剤併用では38.1mg、5剤併用では48.6mg、6剤以上の併用では72.1mgと、処方される薬剤の種類が増えるにつれ投与量が増加していた。

また、薬剤種類数についてみると、抗不安薬では、単剤処方では83.2%、2剤処方では15.4%、3剤処方では1.3%であり、睡眠薬では、単剤処方では62.0%、2剤処方では28.1%、3剤処方では7.5%であった。本結果は、1.の精神科以外の診療科も含む診療報酬データによる分析に比べ、調査対象が精神科病院であるため精神疾患が多いと推測されるが、この場合においても、3種類以上の薬剤を処方されている患者は少なかった。



抗不安薬、睡眠薬の剤数の合計とジアゼパム換算投与量

(参考)

平成 22 年度 厚生労働科学研究費補助金 特別研究事業  
「向精神薬の処方実態に関する国内外の比較研究」

研究代表者：中川敦夫（国立精神・神経医療研究センタートランスレーショナル・メディカルセンター臨床研究支援室）

研究分担者：三島和夫（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神生理研究部）

稲垣 中（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科）

佐渡充洋（慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室）

中林哲夫（国立精神・神経医療研究センタートランスレーショナル・メディカルセンター臨床研究支援室）

吉尾 隆（東邦大学薬学部医療薬学教育センター臨床薬学研究室）

宮本有紀（東京大学大学院医学系研究科精神看護学分野）

総括研究報告

向精神薬の処方実態に関する国内外の比較研究（中川敦夫）

分担研究報告

A. 向精神薬処方の実態調査研究

○診療報酬データを用いた向精神薬処方に関する実態調査研究（三島和夫）

○診療録データ等を用いた向精神薬処方に関する実態調査研究（稲垣 中）

○初診のうつ病患者における投与薬剤の実態調査研究（中川敦夫、菊地俊暁）

B. 向精神薬処方に関する国内外文献（エビデンス）調査研究

○国内外データ・文献を用いた向精神薬処方に関する実態調査研究（佐渡充洋）

○抗うつ薬等の向精神薬の多剤併用に関する検討—海外文献を用いた調査研究（中川敦夫）

C. 向精神薬に対する効果的な情報提供・支援法の開発に関する研究

○薬剤師による向精神薬に対する効果的な情報提供・支援法の開発に関する研究（吉尾 隆）

○看護師等による向精神薬に対する効果的な情報提供・支援法の開発に関する研究（宮本有紀）

## 向精神薬の処方に関する実態調査結果を踏まえた対応について

自殺・うつ病等対策プロジェクトチームにおいて、平成22年9月に、「過量服薬への取組」をとりまとめ、その後、向精神薬の処方に関する実態調査を行っていたが、調査結果を踏まえた今後の対応を以下にまとめた。

### 1. 実態調査結果の公表と情報提供

- 今回の向精神薬（抗不安薬、睡眠薬、抗うつ薬、抗精神病薬）の処方に関する実態調査結果を公表するとともに、向精神薬の処方に関する実態調査を、今後も継続して行う。
- 厚生労働省ホームページ等を通じて、実態調査結果を公表するとともに、医療従事者や一般向けに、以下のような情報提供及び啓発を行う。
  - ① 調査結果によると、医療機関で抗不安薬の処方を受けている人のうち、抗不安薬が3種類以上の割合は1.9%、医療機関で睡眠薬の処方を受けている人のうち、睡眠薬が3種類以上の割合は6.1%、であり、抗不安薬又は睡眠薬のいずれかを3種類以上処方されている人の割合は少ないこと。
  - ② 医療従事者に対しては以下のような情報提供を行う。
    - ・ 抗不安薬や睡眠薬の処方に際しては、残薬の有無や他の医療機関からの処方の有無について確認する等、十分に注意を払っていただくこと。
    - ・ 抗不安薬や睡眠薬については、薬物依存の可能性等に注意し、同種の薬剤を3種類以上処方する必要性について十分に考慮していただくこと。
  - ③ 一般の方に対しては以下のような情報提供を行う。
    - ・ 1回の処方で抗不安薬が3種類以上、又は、1回の処方で睡眠薬が3種類以上のいずれかの処方を受けている場合には、主治医に処方の内容について十分な確認をすること、あるいは、かかりつけの薬剤師等に確認すること等について、必要に応じ、検討していただくこと。

#### 【参考資料】

- ・ 日本で使用されている抗不安薬の商品名一覧（別紙1）
- ・ 日本で使用されている睡眠薬の商品名一覧（別紙2）

- 審査支払機関に対しては、抗不安薬、睡眠薬の処方実態を踏まえた適切な審査がなされるよう、「抗不安薬・睡眠薬の処方実態についての報告」及び、前述の①～③について情報提供する。また、向精神薬の処方については、厚生労働省より、以下（※）の通知がなされていることについて、審査支払機関及び医療機関等へ周知徹底を図る。

（※）

「「療担規則及び薬担規則並びに療担基準に基づき厚生労働大臣が定める揭示事項等」及び「保険外併用療養費に係る厚生労働大臣が定める医薬品等」の実施上の留意事項について」の一部改正について（抄）」（平成22年3月26日 保医発0326 第2号）

#### 第10 厚生労働大臣が定める注射薬等（揭示事項等告示第10 関係）

##### 4 投薬期間に上限が設けられている医薬品

（4）投与期間に上限が設けられている麻薬又は向精神薬の処方は、薬物依存症候群の有無等、患者の病状や疾患の兆候に十分注意した上で、病状が安定し、その変化が予測できる患者に限って行うものとする。

そのほか、当該医薬品の処方に当たっては、当該患者に既に処方した医薬品の残量及び他の医療機関における同一医薬品の重複処方の有無について患者に確認し、診療録に記載するものとする。

## 2. 睡眠薬の投与に関するガイドラインの作成

- これまでの研究成果を踏まえ、日本睡眠学会における「睡眠薬の投与に関するガイドライン」の作成を支援する。  
なお、諸外国のガイドラインを参考に、我が国の医療状況を加味した、専門家向けのガイドラインについては、平成23年度末までを目途にとりまとめられるよう支援する。
- さらに、精神疾患に伴う睡眠障害の方への治療に関して、薬物治療の選択や変更等に関する診療ガイドラインの開発に資する研究を支援する。

## (別紙1)

使用薬剤の薬価(薬価基準)に記載されている医薬品について(平成23年9月12日現在)

抗不安薬の抜粋

品名	成分名	メーカー
アズトレム錠1mg	ロフラゼパ酸エチル	高田製薬
アズトレム錠2mg	ロフラゼパ酸エチル	高田製薬
アズロゲン錠0.5	ロラゼパム	高田製薬
アズロゲン錠1.0	ロラゼパム	高田製薬
アソリタン錠0.4	アルプラゾラム	大洋薬品工業
アタラックス-Pカプセル25mg	バモ酸ヒドロキシジン	ファイザー
アタラックス-Pカプセル50mg	バモ酸ヒドロキシジン	ファイザー
アタラックス-Pシロップ0.5%	バモ酸ヒドロキシジン	ファイザー
アタラックス-Pドロシロップ2.5%	バモ酸ヒドロキシジン	ファイザー
アタラックス-P散10%	バモ酸ヒドロキシジン	ファイザー
アタラックス錠10mg	塩酸ヒドロキシジン	ファイザー
アタラックス錠25mg	塩酸ヒドロキシジン	ファイザー
アルプラゾラム錠0.4mg「トーワ」	アルプラゾラム	東和薬品
アルプラゾラム錠0.8mg「トーワ」	アルプラゾラム	東和薬品
アロファルム錠0.5	エチゾラム	日医工ファーマ
アロファルム錠1.0	エチゾラム	日医工ファーマ
イソクリン錠10mg	クロチアゼパム	沢井製薬
イソクリン糖衣錠5	クロチアゼパム	沢井製薬
エチカム錠0.5mg	エチゾラム	東和薬品
エチカム錠1mg	エチゾラム	東和薬品
エチセダン錠0.5mg	エチゾラム	共和薬品工業
エチセダン錠1mg	エチゾラム	共和薬品工業
エチゾラム錠0.5mg「EMEC」	エチゾラム	サンノーバ
エチゾラム錠0.5mg	エチゾラム	小林化工
エチゾラム錠1mg	エチゾラム	小林化工
エマンダキシシン錠50mg	トフィソパム	長生堂製薬
エリスパン細粒0.1%	フルジアゼパム	大日本住友製薬
エリスパン錠0.25mg	フルジアゼパム	大日本住友製薬
カムダン錠0.4mg	アルプラゾラム	共和薬品工業
カムダン錠0.8mg	アルプラゾラム	共和薬品工業
カプセーフ錠0.5mg	エチゾラム	大原薬品工業
カプセーフ錠1mg	エチゾラム	大原薬品工業
グベリウス錠0.5mg	エチゾラム	ニプロジェネファ
クラソバン錠50mg	トフィソパム	日本ジェネリック
グラダキシシン細粒10%	トフィソパム	持田製薬
グラダキシシン錠50	トフィソパム	持田製薬
グランバム錠50mg	トフィソパム	東和薬品
クロチアゼパム錠10mg「トーワ」	クロチアゼパム	東和薬品
クロチアゼパム錠5mg「トーワ」	クロチアゼパム	東和薬品
10mgコントロール錠(*)	クロルジアゼポキシド	武田薬品工業
5mgコントロール錠(*)	クロルジアゼポキシド	武田薬品工業
コバンダキシシン錠50mg	トフィソパム	小林化工
コレミナル細粒1%	フルタゾラム	沢井製薬
コレミナル錠4mg	フルタゾラム	沢井製薬
コンスーン錠10(*)	クロルジアゼポキシド	鶴原製薬
コンスーン錠5(*)	クロルジアゼポキシド	鶴原製薬
コンスーン散1%(*)	クロルジアゼポキシド	鶴原製薬
コンスタン0.4mg錠	アルプラゾラム	武田薬品工業
コンスタン0.8mg錠	アルプラゾラム	武田薬品工業
コントロール散1%	クロルジアゼポキシド	武田薬品工業
コントロール散10%(*)	クロルジアゼポキシド	武田薬品工業
サイラゼパム錠0.5	エチゾラム	日医工ファーマ
サイラゼパム錠1	エチゾラム	日医工ファーマ
ジアゼパム散1%「アメル」	ジアゼパム	共和薬品工業
ジアゼパム錠2「サワイ」	ジアゼパム	沢井製薬
ジアゼパム錠2「トーワ」	ジアゼパム	東和薬品
ジアゼパム錠2mg「アメル」	ジアゼパム	共和薬品工業
ジアゼパム錠5「トーワ」	ジアゼパム	東和薬品
ジアゼパム錠5mg「アメル」	ジアゼパム	共和薬品工業
ジアバックス錠2mg	ジアゼパム	大鵬薬品工業
ジアバックス錠5mg	ジアゼパム	大鵬薬品工業
ジスロン錠	塩酸ヒドロキシジン	ナガセ医薬品
ジメトックス錠1	ロフラゼパ酸エチル	日医工ファーマ
ジメトックス錠2	ロフラゼパ酸エチル	日医工ファーマ
臭化カリウム(*)	臭化カリウム	山善製薬
臭化ナトリウム(*)	臭化ナトリウム	山善製薬
スカルナーゼ錠1mg	ロフラゼパ酸エチル	東和薬品
スカルナーゼ錠2mg	ロフラゼパ酸エチル	東和薬品
10mgセルシン錠	ジアゼパム	武田薬品工業
2mgセルシン錠	ジアゼパム	武田薬品工業
5mgセルシン錠	ジアゼパム	武田薬品工業
セエルカム錠10	ジアゼパム	鶴原製薬
セエルカム錠2	ジアゼパム	鶴原製薬
セエルカム錠5	ジアゼパム	鶴原製薬
セダブランコーワ錠10	ブラゼパム	興和
セダブランコーワ錠5	ブラゼパム	興和
セディール錠10mg	クエン酸タンドスピロン	大日本住友製薬



セディール錠20mg	クエン酸タンドスピロン	大日本住友製薬
セディール錠5mg	クエン酸タンドスピロン	大日本住友製薬
セデコパン細粒1%	エチゾラム	長生堂製薬
セデコパン錠0.5mg	エチゾラム	長生堂製薬
セデコパン錠1mg	エチゾラム	長生堂製薬
セニラン細粒1%	プロマゼパム	サンド
セニラン錠2mg	プロマゼパム	サンド
セニラン錠3mg	プロマゼパム	サンド
セニラン錠5mg	プロマゼパム	サンド
セバゾン散1%	クロキサゾラム	第一三共
セバゾン錠1	クロキサゾラム	第一三共
セバゾン錠2	クロキサゾラム	第一三共
セルシンシロップ0.1%	ジアゼパム	武田薬品工業
セルシン散1%	ジアゼパム	武田薬品工業
セレナール散10%	オキサゾラム	第一三共
セレナール錠10	オキサゾラム	第一三共
セレナール錠5	オキサゾラム	第一三共
セレナミン錠2mg	ジアゼパム	旭化成ファーマ
セレナミン錠5mg	ジアゼパム	旭化成ファーマ
ソラナックス0.4mg錠	アルプラゾラム	ファイザー
ソラナックス0.8mg錠	アルプラゾラム	ファイザー
タンドスピロクエン酸塩錠10mg「アメル」	クエン酸タンドスピロン	共和薬品工業
タンドスピロクエン酸塩錠10mg「サワイ」	クエン酸タンドスピロン	沢井製薬
タンドスピロクエン酸塩錠10mg「トーワ」	クエン酸タンドスピロン	東和薬品
タンドスピロクエン酸塩錠10mg「日医工」	クエン酸タンドスピロン	日医工
タンドスピロクエン酸塩錠20mg「アメル」	クエン酸タンドスピロン	共和薬品工業
タンドスピロクエン酸塩錠20mg「サワイ」	クエン酸タンドスピロン	沢井製薬
タンドスピロクエン酸塩錠20mg「トーワ」	クエン酸タンドスピロン	東和薬品
タンドスピロクエン酸塩錠20mg「日医工」	クエン酸タンドスピロン	日医工
タンドスピロクエン酸塩錠5mg「アメル」	クエン酸タンドスピロン	共和薬品工業
タンドスピロクエン酸塩錠5mg「サワイ」	クエン酸タンドスピロン	沢井製薬
タンドスピロクエン酸塩錠5mg「トーワ」	クエン酸タンドスピロン	東和薬品
タンドスピロクエン酸塩錠5mg「日医工」	クエン酸タンドスピロン	日医工
トルペール細粒10%	トフィソバム	鶴原製薬
デゾラム錠0.5mg	エチゾラム	大正薬品工業
デゾラム錠1mg	エチゾラム	大正薬品工業
デバス細粒1%	エチゾラム	田辺三菱製薬
デバス錠0.5mg	エチゾラム	田辺三菱製薬
デバス錠1mg	エチゾラム	田辺三菱製薬
デムナット錠0.5mg	エチゾラム	鶴原製薬
デムナット錠1mg	エチゾラム	鶴原製薬
トフィール錠50mg	トフィソバム	大原薬品工業
トフィス錠50mg	トフィソバム	メディサ新薬
トフィソバム細粒10%「CH」	トフィソバム	長生堂製薬
トフィルシ錠50	トフィソバム	シオノケミカル
トルバナシン錠50	トフィソバム	大正薬品工業
トロンハイム錠50mg	トフィソバム	日医工ファーマ
ナオリーゼ錠10mg	クロチアゼパム	鶴原製薬
ナオリーゼ錠5mg	クロチアゼパム	鶴原製薬
ノンネルブ錠0.5	エチゾラム	日新製薬(山形)
ノンネルブ錠1	エチゾラム	日新製薬
パールキット散1%	ジアゼパム	ニプロファーマ
パールキット錠2mg	ジアゼパム	ニプロファーマ
パールキット錠5mg	ジアゼパム	ニプロファーマ
バイダキシ錠50mg	トフィソバム	ナガセ医薬品
ハイミジン錠50mg	トフィソバム	ニプロジェネファ
ハタナジン錠	パモ酸ヒドロキシジン	日新製薬(山形)
ハタナジン錠25mg	パモ酸ヒドロキシジン	日新製薬(山形)
パムネース細粒	メダゼパム	東邦新薬
パムネース錠2	メダゼパム	東邦新薬
パムネース錠5	メダゼパム	東邦新薬
バランス錠10mg(*)	クロルジアゼボキシド	アステラス製薬
バランス錠5mg(*)	クロルジアゼボキシド	アステラス製薬
バランス散10%(*)	クロルジアゼボキシド	アステラス製薬
バルギン錠0.5mg	エチゾラム	藤永製薬
バルギン錠1mg	エチゾラム	藤永製薬
ベルサール細粒10%	オキサゾラム	イセイ
ベルサール錠10mg	オキサゾラム	イセイ
ベルサール錠20mg	オキサゾラム	イセイ
ホリゾン散1%	ジアゼパム	アステラス製薬
ホリゾン錠2mg	ジアゼパム	アステラス製薬
ホリゾン錠5mg	ジアゼパム	アステラス製薬
マイロニン錠50mg	トフィソバム	キョーリンリメディオ
メイラックス細粒1%	ロフラゼパムエチル	Meiji Seika ファルマ
メイラックス錠1mg	ロフラゼパムエチル	Meiji Seika ファルマ
メイラックス錠2mg	ロフラゼパムエチル	Meiji Seika ファルマ
メダゼパム錠2(ツルハラ)	メダゼパム	鶴原製薬
メダゼパム錠5(ツルハラ)	メダゼパム	鶴原製薬
メディブース錠0.5	エチゾラム	メディサ新薬
メディブース錠1	エチゾラム	メディサ新薬
メデタックス錠1	ロフラゼパムエチル	メディサ新薬

メデタックス錠2	ロフラゼブ酸エチル	メディサ新薬
メデボリン錠0.4	アルプラゾラム	メディサ新薬
メデボリン錠0.8	アルプラゾラム	メディサ新薬
メレックス細粒0.1%	メキサゾラム	第一三共
メレックス錠0.5mg	メキサゾラム	第一三共
メレックス錠1mg	メキサゾラム	第一三共
メンドンカプセル7.5mg	クロラゼブ酸二カリウム	アボットジャパン
モーズン錠0.5mg	エチゾラム	辰巳化学
モーズン錠1mg	エチゾラム	辰巳化学
ユーバン錠0.5mg	ロラゼパム	沢井製薬
ユーバン錠1.0mg	ロラゼパム	沢井製薬
リーゼ錠10mg	クロチアゼパム	田辺三菱製薬
リーゼ錠5mg	クロチアゼパム	田辺三菱製薬
リーゼ顆粒10%	クロチアゼパム	田辺三菱製薬
リリバー散1%	ジアゼパム	マイラン製薬
リリフター錠10	クロチアゼパム	日医工ファーマ
リリフター錠5	クロチアゼパム	日医工ファーマ
リルミン錠5	クロチアゼパム	大洋薬品工業
レキソタン細粒1%	プロマゼパム	中外製薬
レキソタン錠1	プロマゼパム	中外製薬
レキソタン錠2	プロマゼパム	中外製薬
レキソタン錠5	プロマゼパム	中外製薬
レスダス錠2mg	フルトラゼパム	MSD
レスミット錠2	メダゼパム	塩野義製薬
レスミット錠5	メダゼパム	塩野義製薬
ロンラックス錠1mg	ロフラゼブ酸エチル	シオノケミカル
ロンラックス錠2mg	ロフラゼブ酸エチル	シオノケミカル
ワイボックス錠0.5	ロラゼパム	ファイザー
ワイボックス錠1.0	ロラゼパム	ファイザー

(\* )統一名取載

## (別紙2)

使用薬剤の薬価(薬価基準)に記載されている医薬品について(平成23年9月12日現在)

睡眠薬の抜粋

品名	成分名	メーカー
アサシオン0.25mg錠	トリアゾラム	長生堂製薬
アスコマーナ錠0.25	トリアゾラム	日新製薬(山形)
アムネゾン錠0.25mg	プロチゾラム	日新製薬(山形)
アモバンテス錠10	ゾピクロン	小林化工
アモバンテス錠7.5	ゾピクロン	小林化工
アモバン錠10	ゾピクロン	サノフィ・アベンティス
アモバン錠7.5	ゾピクロン	サノフィ・アベンティス
アロファルム錠0.5	エチゾラム	日医工ファーマ
アロファルム錠1.0	エチゾラム	日医工ファーマ
イソミタール原末(*)	アモバルピタール	日本新薬
エスタゾラム錠1mg「アメル」	エスタゾラム	共和薬品工業
エスタゾラム錠2mg「アメル」	エスタゾラム	共和薬品工業
エチカーム錠0.5mg	エチゾラム	東和薬品
エチカーム錠1mg	エチゾラム	東和薬品
エチセダグ錠0.5mg	エチゾラム	共和薬品工業
エチセダグ錠1mg	エチゾラム	共和薬品工業
エチゾラム錠0.5mg「EMEC」	エチゾラム	サンノーバ
エチゾラン錠0.5mg	エチゾラム	小林化工
エチゾラン錠1mg	エチゾラム	小林化工
エバミール錠1.0	ロルメタゼパム	バイエル薬品
エリミン錠3mg	ニメタゼパム	大日本住友製薬
エリミン錠5mg	ニメタゼパム	大日本住友製薬
塩酸リルマザホン錠1「MEEK」	塩酸リルマザホン	小林化工
塩酸リルマザホン錠2「MEEK」	塩酸リルマザホン	小林化工
カブセーフ錠0.5mg	エチゾラム	大原薬品工業
カブセーフ錠1mg	エチゾラム	大原薬品工業
カムリトン0.25mg錠	トリアゾラム	寿製薬
クアゼパム錠15mg「MNP」	クアゼパム	日新製薬(山形)
クアゼパム錠15mg「YD」	クアゼパム	陽進堂
クアゼパム錠15mg「アメル」	クアゼパム	共和薬品工業
クアゼパム錠15mg「サワイ」	クアゼパム	沢井製薬
クアゼパム錠15mg「トーワ」	クアゼパム	東和薬品
クアゼパム錠15mg「日医工」	クアゼパム	日医工
クアゼパム錠20mg「MNP」	クアゼパム	日新製薬(山形)
クアゼパム錠20mg「YD」	クアゼパム	陽進堂
クアゼパム錠20mg「アメル」	クアゼパム	共和薬品工業
クアゼパム錠20mg「サワイ」	クアゼパム	沢井製薬
クアゼパム錠20mg「トーワ」	クアゼパム	東和薬品
クアゼパム錠20mg「日医工」	クアゼパム	日医工
グッドミン錠0.25mg	プロチゾラム	田辺三菱製薬
グベリース錠0.5mg	エチゾラム	ニプロジェネファ
サイラゼパム錠0.5	エチゾラム	日医工ファーマ
サイラゼパム錠1	エチゾラム	日医工ファーマ
サイレース錠1mg	フルニトラゼパム	エーザイ
サイレース錠2mg	フルニトラゼパム	エーザイ
「純生」プロムワレリル尿素	プロムワレリル尿素	純生薬品工業
「純生」ルミナル散(*)	フェノバルピタール	純生薬品工業
スローハイム錠10	ゾピクロン	共和薬品工業
スローハイム錠7.5	ゾピクロン	共和薬品工業
ゼストロミン錠0.25mg	プロチゾラム	東和薬品
セドコバン細粒1%	エチゾラム	長生堂製薬
セドコバン錠0.5mg	エチゾラム	長生堂製薬
セドコバン錠1mg	エチゾラム	長生堂製薬
ゾピクール錠10	ゾピクロン	沢井製薬
ゾピクール錠7.5	ゾピクロン	沢井製薬
ゾピクロン錠10mg「トーワ」	ゾピクロン	東和薬品
ゾピクロン錠7.5mg「トーワ」	ゾピクロン	東和薬品
ソメリン細粒1%	ハロキサゾラム	第一三共
ソメリン錠10mg	ハロキサゾラム	第一三共
ソメリン錠5mg	ハロキサゾラム	第一三共
ソレントミン錠0.25mg	プロチゾラム	大正薬品工業
ダルメートカプセル15	塩酸フルラゼパム	共和薬品工業
チスボン錠10	ニトラゼパム	鶴原製薬
チスボン錠5	ニトラゼパム	鶴原製薬
デゾラム錠0.5mg	エチゾラム	大正薬品工業
デゾラム錠1mg	エチゾラム	大正薬品工業
デバス細粒1%	エチゾラム	田辺三菱製薬
デバス錠0.5mg	エチゾラム	田辺三菱製薬
デバス錠1mg	エチゾラム	田辺三菱製薬
デムナット錠0.5mg	エチゾラム	鶴原製薬
デムナット錠1mg	エチゾラム	鶴原製薬
ドバリアル錠10	ゾピクロン	キョーリンリメディオ
ドバリアル錠7.5	ゾピクロン	キョーリンリメディオ
ドラル錠15	クアゼパム	久光製薬
ドラル錠20	クアゼパム	久光製薬
トリアゾラム錠0.125mg「EMEC」	トリアゾラム	サンノーバ
トリアゾラム錠0.125mg「JG」	トリアゾラム	大興製薬

トリアゾラム錠0.25mg「JG」	トリアゾラム	大興製薬
トリアゾラム錠0.25mg「TSU」	トリアゾラム	鶴原製薬
トリアゾラム錠0.25mg	トリアゾラム	小林化工
トリクロロールシロップ10%	トリクロロホスナトリウム	アルフレッサファーマ
ニトラゼパム錠5mg「トーワ」	ニトラゼパム	東和薬品
ネスゲン錠「0.25」	トリアゾラム	辰巳化学
ネストローム錠0.25mg	プロチゾラム	辰巳化学
ネルボン散1%	ニトラゼパム	第一三共
ネルボン錠10mg	ニトラゼパム	第一三共
ネルボン錠5mg	ニトラゼパム	第一三共
ネルロレン細粒1%	ニトラゼパム	辰巳化学
ネルロレン錠「10」	ニトラゼパム	辰巳化学
ネルロレン錠「5」	ニトラゼパム	辰巳化学
ノイクロニック錠5	ニトラゼパム	大洋薬品工業
ノクスター錠0.25mg	プロチゾラム	アルフレッサファーマ
ノンネルブ錠0.5	エチゾラム	日新製薬(山形)
ノンネルブ錠1	エチゾラム	日新製薬
バルギン錠0.5mg	エチゾラム	藤永製薬
バルギン錠1mg	エチゾラム	藤永製薬
ハルシオン0.125mg錠	トリアゾラム	ファイザー
ハルシオン0.25mg錠	トリアゾラム	ファイザー
バルピタール「ホエイ」(*)	バルピタール	マイラン製薬
ハルラック錠0.125mg	トリアゾラム	富士薬品
ハルラック錠0.25mg	トリアゾラム	富士薬品
バルレオン錠0.125mg	トリアゾラム	大洋薬品工業
バルレオン錠0.25mg	トリアゾラム	大洋薬品工業
ビビットエース錠1mg	フルニトラゼパム	辰巳化学
ビビットエース錠2mg	フルニトラゼパム	辰巳化学
ヒルスカミン錠5mg	ニトラゼパム	イセイ
フェノバルエリキシル0.4%	フェノバルピタール	藤永製薬
フェノバル原末	フェノバルピタール	藤永製薬
フェノバル散10%	フェノバルピタール	藤永製薬
フェノバル錠30mg	フェノバルピタール	藤永製薬
フェノバルピタール「ホエイ」	フェノバルピタール	マイラン製薬
フェノバルピタール散10%「JG」	フェノバルピタール	日本ジェネリック
フェノバルピタール散10%「シオエ」	フェノバルピタール	シオエ製薬
フェノバルピタール散10%「ヒシヤマ」	フェノバルピタール	ニプロファーマ
フェノバルピタール散10%「ヒシヤマ」(*)	フェノバルピタール	ニプロファーマ
フェノバルピタール散10%「ホエイ」(*)	フェノバルピタール	マイラン製薬
フェノバルピタール散10%「マルイシ」	フェノバルピタール	丸石製薬
フルトラース錠1mg	フルニトラゼパム	シオノケミカル
フルニトラゼパム錠1mg「アメル」	フルニトラゼパム	共和薬品工業
フルニトラゼパム錠2mg「アメル」	フルニトラゼパム	共和薬品工業
プロゾーム錠0.125mg	プロチゾラム	ニプロファーマ
プロゾーム錠0.25mg	プロチゾラム	ニプロファーマ
プロチゾラムM錠0.25「EMEC」	プロチゾラム	サンノーバ
プロチゾラムOD錠0.25mg「JG」	プロチゾラム	大興製薬
プロチゾラムOD錠0.25mg「タイヨー」	プロチゾラム	大洋薬品工業
プロチゾラム錠0.25mg「CH」	プロチゾラム	長生堂製薬
プロチゾラム錠0.25mg「JG」	プロチゾラム	大興製薬
プロチゾラム錠0.25mg「YD」	プロチゾラム	陽進堂
プロチゾラム錠0.25mg「タイヨー」	プロチゾラム	大洋薬品工業
プロチゾラン錠0.25mg	プロチゾラム	日医工
プロバリン原末	ブロムワレリル尿素	日本新薬
ブロムワレリル尿素(山善)	ブロムワレリル尿素	山善製薬
ブロムワレリル尿素(ハチ)	ブロムワレリル尿素	東洋製薬化成
ブロムワレリル尿素「JG」	ブロムワレリル尿素	日本ジェネリック
ブロムワレリル尿素「ヒシヤマ」(*)	ブロムワレリル尿素	ニプロファーマ
ブロムワレリル尿素「ホエイ」	ブロムワレリル尿素	マイラン製薬
ブロムワレリル尿素「メタル」	ブロムワレリル尿素	中北薬品
ブロムワレリル尿素「三恵」	ブロムワレリル尿素	三恵薬品
プロメトン錠0.25mg	プロチゾラム	マイラン製薬
プロモバレリル尿素「ヨシダ」	ブロムワレリル尿素	吉田製薬
プロモバレリル尿素原末「マルイシ」	ブロムワレリル尿素	丸石製薬
ベグタミン-A配合錠	クロルプロマジン・プロメタジン	塩野義製薬
ベグタミン-B配合錠	クロルプロマジン・プロメタジン	塩野義製薬
ベグタミン錠-A	クロルプロマジン・プロメタジン	塩野義製薬
ベグタミン錠-B	クロルプロマジン・プロメタジン	塩野義製薬
ベノジールカプセル10	塩酸フルラゼパム	協和発酵キリン
ベノジールカプセル15	塩酸フルラゼパム	協和発酵キリン
ベンザリン細粒1%	ニトラゼパム	塩野義製薬
ベンザリン錠10	ニトラゼパム	塩野義製薬
ベンザリン錠2	ニトラゼパム	塩野義製薬
ベンザリン錠5	ニトラゼパム	塩野義製薬
抱水クロラール「ホエイ」(*)	抱水クロラール	マイラン製薬
マイスリー錠10mg	酒石酸ソルピデム	アステラス製薬
マイスリー錠5mg	酒石酸ソルピデム	アステラス製薬
ミンザイン錠0.125mg	トリアゾラム	日医工
ミンザイン錠0.25mg	トリアゾラム	日医工
メディブース錠0.5	エチゾラム	メディサ新薬
メディブース錠1	エチゾラム	メディサ新薬

メトローム錠10	ゾピクロン	辰巳化学
メトローム錠7.5	ゾピクロン	辰巳化学
モーズン錠0.5mg	エチゾラム	辰巳化学
モーズン錠1mg	エチゾラム	辰巳化学
ユーロジン1mg錠	エスタゾラム	武田薬品工業
ユーロジン2mg錠	エスタゾラム	武田薬品工業
ユーロジン微1%	エスタゾラム	武田薬品工業
ラボナ錠50mg	ペントバルビタールカルシウム	田辺三菱製薬
リスミー錠1mg	塩酸リルマザホン	塩野義製薬
リスミー錠2mg	塩酸リルマザホン	塩野義製薬
レドルパー錠0.25mg	プロチゾラム	大原薬品工業
レンドムD錠0.25mg	プロチゾラム	メディサ新薬
レンドム錠0.25mg	プロチゾラム	メディサ新薬
レンドルミンD錠0.25mg	プロチゾラム	日本ベーリンガーインゲルハイム
レンドルミン錠0.25mg	プロチゾラム	日本ベーリンガーインゲルハイム
ロヒブノール錠1	フルニトラゼパム	中外製薬
ロヒブノール錠2	フルニトラゼパム	中外製薬
ロラメット錠1.0	ロルメタゼパム	あすか製薬
ロンフルマン錠0.25mg	プロチゾラム	共和薬品工業

(\*)統一名収載

# 過量服薬への取組

(資料)

～ 薬物治療のみに頼らない診療体制の構築に向けて ～

厚生労働省 自殺・うつ病等対策プロジェクトチーム (平成22年9月9日)

## 過量服薬の実態と背景

### ○自殺既遂者(76名)の遺族に対する調査

- ・受診歴のある者が約50%、受診群のうち39歳以下が約7割弱
- ・受診群の約6割が処方された向精神薬を過量服薬

### ○向精神薬の処方に関する調査

- ・2005年～2007年の約30万件のレセプト調査で、向精神薬を処方されている患者の割合は増加傾向

### ○患者側の要因

- ・症状が改善せずやむを得ず服薬量を増量したり長期間継続してしまう
- ・薬物への依存という認識が不足しており、医師に処方を求めてしまう

### ○診療側の要因

- ・患者との治療関係を築きにくい診療環境
- ・薬物の処方を強く望む患者に対して説得が困難な状況にある
- ・説得なく処方を拒否すると医療から遠のいてしまう恐れ

様々な要素が複雑に絡み合った根深い問題

当面の対策

今後検討していく対策  
(ワーキングチームを設置)

### 取組1

#### 薬剤師の活用

- ・薬剤師によるリスクの高い患者への声かけ等の取組を推進
- ・薬剤師に対する薬物依存等に関する研修機会の提供

### 取組2

#### ガイドラインの作成・普及啓発の推進

- ・最新の診療ガイドラインの普及啓発を推進
- ・境界性パーソナリティ障害に関する診療ガイドラインの普及啓発
- ・多剤処方の是正に関するガイドライン等の作成

### 取組3

#### 研修事業に過量服薬への留意事項を追加

- ・厚生労働省や関係団体が行う研修事業を活用

### 取組4

#### 一般医療と精神科医療の連携強化

- ・救命救急センターにおける精神科ケアの対応能力の向上を推進
- ・一般医療と精神科医療との連携を強化する取組を周知

### 取組5

#### チーム医療で患者と良好な関係を築くための取組

- ・チーム医療を担える人材育成を推進

### 検討1 向精神薬に関する処方の実態把握・分析

- ・処方した診療科名、処方量・種類、疾患名等についての実態把握と分析の方法について検討

### 検討2 患者に役立つ医療機関の情報提供の推進

- ・医師の診療経験に関する情報など、どのような情報が患者にとって、適切な医療機関の選択に役立つのか慎重に検討し、その情報公開の仕組みを検討

### 検討3 不適切な事例の把握とそれへの対応

- ・明らかに不適切と思われる事例を把握・確認する方策を検討
- ・加えて、そのような場合の医療機関や患者への助言・指導の方法を検討

### 検討4 過量服薬のリスクの高い患者への細やかな支援体制の構築

- ・患者や家族に対する訪問支援等のチームによる細やかな支援体制の構築のため、モデル事業や人材育成の方策を検討
- ・医療機関や薬局による、患者への薬剤に関する効果的な情報提供について検討

### 検討5 患者との治療関係を築きやすい診療環境の確保

- ・診療時間を十分に確保するために必要な支援を検討